

2010 新春対談



片岡聡一市長と萱原潤総社市議会議長がコミュニティカフェ・宮筋文化堂で平成22年の総社市を展望。強い総社市づくりや議会改革について熱く語り合いました。

新春対談は、コミュニティカフェ・宮筋文化堂（総社三丁目。写真右）で収録



平成22年は

情熱

その2

市民の納税感、幸せ感、期待感というものにつながっていけば、願ったりかなったりだと思います。

議長 議会内にもそうした機運が高まったということですね。

総社らしさを出す

市長 就任以来、子育て王国、観光、環境、高齢者対策、夜間診療体制、人事考課制度、農業などさまざまな分野で種まきをしてきました。農業では、総社市の農業のあるべき姿を探り、農業従事者を一人でも多く増やしていくと、生産者や流通、消費者などが一堂に会した新農業会議を発足させました。

議長 農業問題に真正面から取り組んでいることは良いことですね。農業をしている皆さんの思いをとらえ、できるところは支えていくなど、農業のことに親身になることも大切ではないですか。

市長 農産物を求めて年間

ます。一般質問を一問一答方式に変え、6月定例会市議会から試行できないかと、検討を進めています。

な」となれば、市政への関心もより高まるでしょう。

市長 一つの質問に心を込めて一つ答えることは、市民により分かりやすく市政が伝えられることで、

民の皆さんへの貢献になり、元気づけることにつながればと思っています。

市長 議員の皆さんとはいつも熱い議論をしています。今年もより活発化させていくことが市民の幸せにつながりますね。

議長 大きいですけれども今年を議会改革の元年にしたいという思いがあり

で、がむしゃらに引っ張っていった激動の1年であったと思います。

議長 不景気を家庭に例えるとお父さんが元気がなくクシユンとして、みんなが沈んでいる状態です。私も議会は昨年、改選で、「よしやってやろう」という新たな思いで挑んでいます。その思いが市

市長 あけましておめでとうございます。

議長 おめでとうございませう。どうぞ本年もよろしくお願いします。

市長 昨年は「情熱」をテーマに1年間走り抜けてきました。世界的な不景気のなかで、総社市のリーダーとして、「情熱」という燃えたるような気持ち